

東芝エレベータ（株）

最近、国内の各地で発生する地震に加え、建物の耐震強度の問題や昇降機事故などの報道があいついでおり、安全に対する国民的関心が高まりを見せています。東芝エレベータ(株)は従来から、安心・安全と快適性をモットーにして、昇降機の商品化を進めてきておりますが、このほど、お客さまになおいっそう安心して使っていただけの製品を開発し、販売を開始しました。

エレベーターでは、今やデファクトスタンダードの地位を確立しているマシンルームレス エレベーター SPACEL-EX™の安全性をいっそう向上させ、地震時の対応機能を充実させました。更に、使いやすさと安全性に十分配慮したユニバーサルデザインを随所に盛り込んでいます。

一方、動く歩道では、駆動部分の構造の改善により省スペース化を実現させたのと並行して、案内機構についても改善し、低騒音化と快適な乗りごちを実現させております。

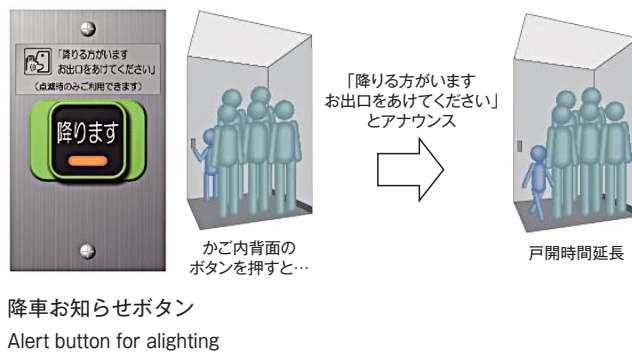
昇降機は、今や巨大市場となった中国をはじめとしてグローバル化が進んでおります。今後、安全性を更に向上させるとともに、世界的な規模において、すべてのお客さまに満足いただける製品の提供を続けてまいります。

統括技師長 原田 豊

### ● 安心・安全な標準形エレベーター SPACEL-EX™

国土交通省のエレベーター地震防災対策(新方針案)に対応した“緊急救出運転”，“自動復旧運転”，“リスタート運転”などの機能を盛り込んだ新製品 SPACEL-EX™を開発し、2006年7月に販売を開始した。

併せて、ユニバーサルデザインとして、戸袋に手を引き込まれないように注意喚起する“お知らせドアセンサ”や、混雑時の乗降に配慮した“降車お知らせボタン”を開発した。親切や気配りを反映した製品として好評を博しており、これからもいっそう安全で安心なエレベーターを提供するための開発を進めていく。



### ● 薄形・省スペースの動く歩道

薄形で省スペースの動く歩道を、2007年1月に東京国際空港第2旅客ターミナルビルに納入した。

この製品では、踏み板をチェーンと鎖車によって床下と床下との間で循環駆動している。踏み板反転部の鎖車に少歯数で直径の小さなものを使用することにより、床下深さを従来の最大1,050 mmから500 mmとして、省スペース化した。

少歯数の鎖車の駆動に特有の多角形効果による脈動を補償するため、チェーンを数 mm 程度う回動作させる案内機構を採用し、良好な乗りごちを実現した。

また、上記のう回動作に伴う衝撃の発生と振動の伝達を抑制し、踏み板反転部での騒音低減に成功した。



薄型動く歩道  
Thin-type moving walkway